

’18 水中ロボットコンベンション in JAMSTEC ～海と日本プロジェクト～  
開催報告

平成 30 年 8 月 29 日

特定非営利活動法人 日本水中ロボネット  
水中ロボコン in JAMSTEC’18 実行委員会

平成 30 年 8 月 24 日（金）から 26 日（日）の三日間、’18 水中ロボットコンベンション in JAMSTEC ～海と日本プロジェクト～を国立研究開発法人海洋研究開発機構横須賀本部にて開催いたしました。

今年は 5 月に神戸で開催された OTO’18 で AUV の競技会が開催されたため、本コンベンションではフリー部門（一般競技部門）とジュニア部門の 2 部門を開催し、それぞれ 12 チームと 14 チームの参加を得ました。本年は AUV 部門がないこと、同時期に他のロボコンが開催されることもあり、参加者の減少が心配されておりましたが、最終的にはこれまで最大の延べ 418 名の参加者を得ることができました。次第に認知度も高まってきたものと思われまます。

今年も引き続き日本財団など多くの機関から助成を受けることが出来ましたため、ジュニア部門に対しては、機材の提供および旅費の支援を行ないました。フリー部門に高校生チームが 5 チーム参加するなど、水中ロボットにチャレンジする年齢層の拡大が感じられました。

2 日目午前には昨年に引き続き水中ロボットセミナーを開催し、80 名以上の方に聴講して頂きました。海洋研究開発機構の田代広報担当役、東京海洋大学の清水教授、九州工業大学の西田助教に講演をしていただきました。

2 日目午後にはフリー部門参加チームによるワークショップを開催しました。これまで通り、単に製作した水中ロボットによる競技を行なうだけでなく、どのようなコンセプトでロボット開発を行ったか等のプレゼンテーションの重要性も体験してもらう場を提供することができました。

2 日目にはジュニア部門も始まりました。ジュニア部門ではコンベンション開催に先立



って参加チームに部品とマニュアルを提供し、事前に学習を行い、組み立てた状態で参加するように指導しています。工作教室では、講師の指導の元に、問題点を解決し、完成度を高めるとともに、独自の工夫をするように指導しました。

3日目には、フリー部門のフリー演技とジュニア部門による空き缶拾い競争を行い、その完成度や操縦のうまさなどを楽しみながら競い合いました。

今年も、神奈川県、横須賀市に後援に加わって頂くことができました。また、海洋研究開発機構、日本財団をはじめとして、日本船舶海洋工学会、IEEE OES 日本支部、テクノオーシャンネットワーク、MTS 日本支部、松山工業（株）、（株）フルデプスなど多くの団体からご支援、ご協力を頂くことができました。このように成功裏に開催できたのも、多くの皆様のご協力のおかげと心から感謝を申し上げる次第です。今後も参加層を拡げてレベルを向上させながら、海洋技術を支える人材育成に貢献できるよう、発展的な継続をしていきたいと考えております。皆様からの今後なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



ジュニア部門

### 1. 開催期間

平成 30 年 8 月 24 日（金）～26 日（日）

### 2. 開催場所

国立研究開発法人 海洋研究開発機構（JAMSTEC）横須賀本部

〒237-0061 神奈川県横須賀市夏島町 2-15

多目的プール（ロボット調整、水中競技）

大講義室（セミナー、ワークショップ、開会式、閉会式）

本館 1 階第 1 セミナー室（ジュニア部門、フリー部門）

本館 1 階第 2 セミナー室（ジュニア部門）

本館 1 階拠点連絡室（審査・集計）

本館 1 階廊下（土日のみ、フリー部門、受付）

### 3. 実施体制

共催：日本水中ロボネット、海洋研究開発機構、日本船舶海洋工学会、IEEE/OES 日本支部、MTS 日本支部、テクノオーシャン・ネットワーク

後援：神奈川県、横須賀市、東京海洋大学、東京大学生産技術研究所海中観測実装工

学研究センター、九州工業大学社会ロボット具現化センター  
助成：日本財団「海と日本プロジェクト」  
協賛：松山工業株式会社、株式会社フルデプス  
協力：アクアモデラーズ・ミーティング、日本水産、O.R.E.  
実行委員会：水中ロボコン in JAMSTEC '18 実行委員会（日本水中ロボネット）

#### 4. 参加チーム

##### 一般競技部門（フリー）

東京海洋大学ロボット研究会	東京海洋大学
チームTOYAMA	富山県立滑川高等学校
チームΔ-Y	富山県立富山工業高校
MARS	明治大学
東京工業大学ロボット技術研究会アクア研	東京工業大学
海洋科学高校	神奈川県立海洋科学高等学校
よこ	東京大学
小山工業高等専門学校田中研	小山工業高等専門学校
豊橋技科大コンピュータクラブ	豊橋技術科学大学
チームひとり	千葉工業大学
東工大附属 12 期機械科干潟ロボット製作チーム	東京工業大学附属科学技術高等学校
コバンザメと私	デジタルハリウッド大学院



水中ロボットセミナー

## ジュニア部門

NiAScience

サラマンダー0926

早実科学部

チーム ジャイアン

県横 72 期

MOSEY

水俣高校工作部

海洋工学部

DGK@しんかい 4.8

砧南ロボコンチーム

硫燃星

慶應 - A

慶應-B

チームなかつぱ

長崎総合科学大学附属高等学校

品川区立大崎中学校

早稲田実業学校

富山県立富山工業高等学校

神奈川県立横須賀高等学校

産業技術高等専門学校

熊本県立水俣高等学校

愛知県立三谷水産高等学校

芝浦工業大学附属高等学校

世田谷区立砧南中学校

東京都立産業技術高専

慶應義塾湘南藤沢中等部

慶應義塾湘南藤沢中高等部

平塚市立中原中学校

## 5. 参加人数

	フリー	ジュニア	見学	報道	横須賀市	スタッフ等	合計
8/24	33	12	1	0	2	18	66
8/25	42	58	25	0	1	35	161
8/26	40	57	46	3	4	41	191
延べ人数	115	127	72	3	7	94	418

## 6. 取材

(株) ジェイコム横須賀

神奈川ケーブルテレビ

ロボコンマガジン

## 7. 審査結果

### 7. 1 表彰

<フリー部門>

優勝 東工大附属 12 期機械科



表彰式

干潟ロボット製作チーム

(東京工業大学附属科学技術高等学校)

準優勝 チーム TOYAMA (富山県立滑川高等学校)

第三位 小山工業高等専門学校田中研 (小山工業高等専門学校)

<ジュニア部門>

優勝 慶應-A (慶應義塾湘南藤沢中高等部)

準優勝 早実科学部 (早稲田実業学校中等部)

第三位 ナカッパ (平塚市立中原中学校、平塚市立春日野中学校)

<JAMSTEC 理事長賞>

コバンザメと私 (デジタルハリウッド大学院)

7. 2 一般競技部門の審査結果詳細

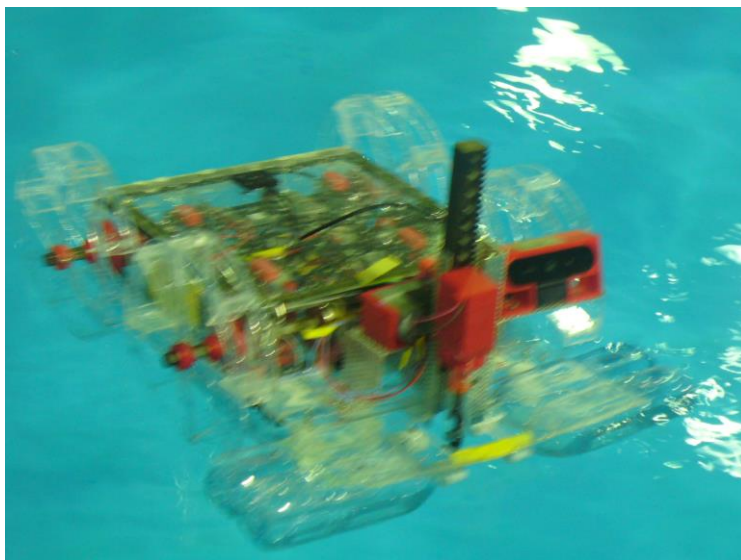
番号	チーム名	重量点	プレゼン点	競技点	合計	順位
フリー1	チームひとり(千葉工業大学)	20	22	24	<b>66</b>	<b>11</b>
フリー2	チームTOYAMA(富山県立滑川高等学校)	20	38	30	<b>87</b>	<b>2</b>
フリー3	小山工業高等専門学校田中研 (小山工業高等専門学校)	20	34	33	<b>87</b>	<b>3</b>
フリー4	MARS(明治大学)	20	24	19	<b>63</b>	<b>12</b>
フリー5	豊橋技科大コンピュータクラブ (豊橋技術科学大学)	20	30	32	<b>82</b>	<b>5</b>
フリー6	東京工業大学ロボット技術研究会アクア研 (東京工業大学)	20	26	27	<b>74</b>	<b>7</b>
フリー7	東京海洋大学ロボット研究会 (東京海洋大学)	20	29	27	<b>75</b>	<b>6</b>
フリー8	海洋科学高校 (神奈川県立海洋科学高等学校)	20	26	27	<b>74</b>	<b>7</b>
フリー9	よこ(東京大学)	20	23	24	<b>67</b>	<b>10</b>
フリー10	コバンザメと私(デジタルハリウッド大学院)	20	30	36	<b>86</b>	<b>4</b>
フリー11	東工大附属12期機械科干潟ロボット製作チーム (東京工業大学附属科学技術高等学校)	20	38	39	<b>97</b>	<b>1</b>
フリー12	チームΔ-Y(富山県立富山工業高校)	20	28	23	<b>71</b>	<b>9</b>

7. 3 一般競技審査委員

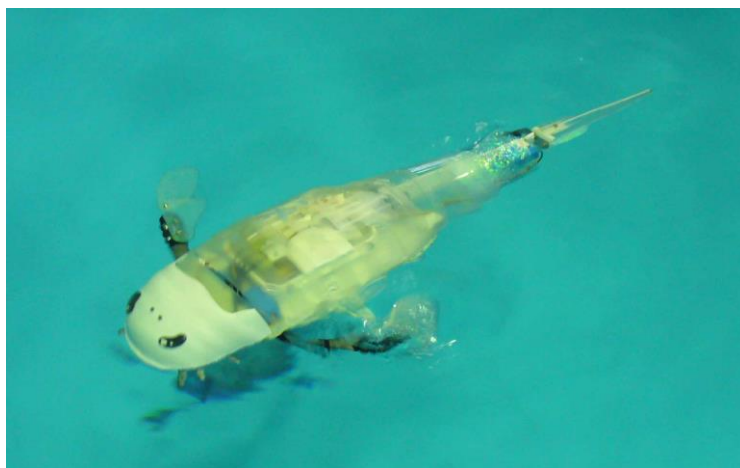
日本水中ロボネット	
巻 俊宏	東京大学生産技術研究所 准教授
近藤 逸人	東京海洋大学 教授
田原 淳一郎	東京海洋大学 准教授
清水 悦郎	東京海洋大学 教授
松田 匠未	東京大学生産技術研究所 特任研究員



松本 洋平	東京海洋大学 助教
海洋研究開発機構 (JAMSTEC)	
吉田 弘	海洋研究開発機構 海洋工学センター 海洋基幹技術研究部 部長



優勝した干潟ロボット



JAMSTEC 特別理事長賞を受賞した「コバンザメと私」チームのロボット